

作品リスト

※展示した作品はすべて富山秀伯さんの所蔵です。
※作品の番号は展示の順序と一致するものではありません。

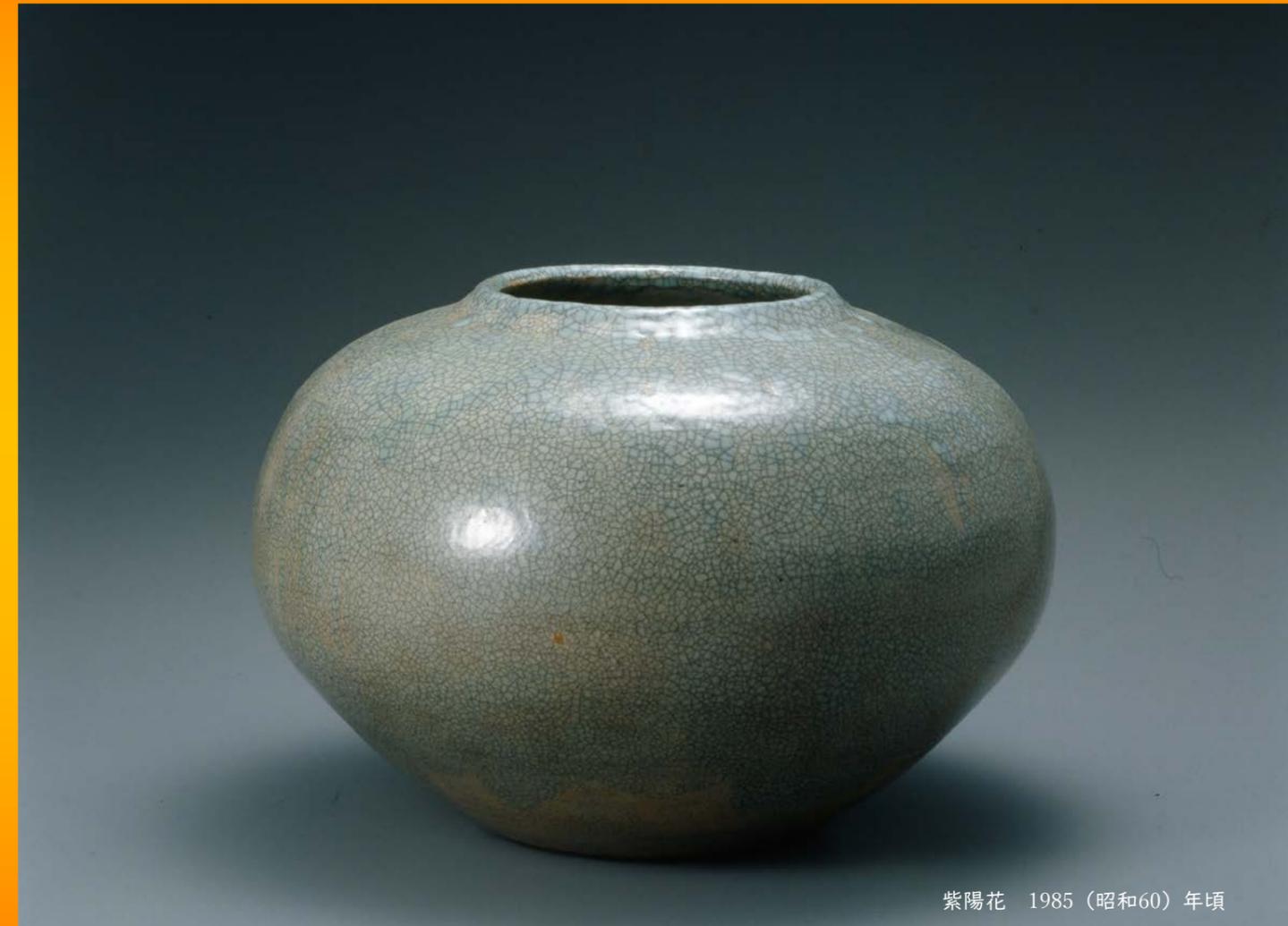
番号	資料・作品名	年代	材質	寸法:高さ×幅×奥行(cm)	点数	展示期間
1	炭化窯変タンブラー	1980年代	陶器	10.5×7.6×7.6	1	10/16-11/4
2	湯呑茶碗	1980年代前半	陶器	9.4×7.8×7.8	1	10/16-11/4
3	桜灰釉コーヒーカップ	1980年代初頭	陶器	9.5×10.7×10.7	1	10/16-11/4
4	炭化窯変徳利・炭化窯変ぐい呑み	1980年代後半	陶器	徳利17×9×7.5 ぐい呑み6.8×5.5×5.8 ぐい呑み5.6×5.5×5.6	1式	10/16-11/4
5	辰砂釉皿	1980年代前半	陶器	4.6×17.5×17.5	1	10/16-11/4
6	織部釉皿	1980年代前半	陶器	4.2×17.7×18	1	10/16-11/4
7	織部釉かけ流し大皿	1980年代	陶器	5.9×30×30	1	10/16-10/20
8	織部釉かけ流し大皿	1980年代	陶器	6.9×34.3×34.3	1	10/22-11/4
9	白萩釉水指	1980年代前半	陶器	17×18×14.8	1	10/16-11/4
10	火襷水指	1980年代前半	陶器	14.7×18×16.3	1	10/16-11/4
11	鉄釉水指	1980年代前半	陶器	18.5×19×16	1	10/16-11/4
12	貫入抹茶茶碗	2000年代	陶器	8.5×11.3×11.3	1	10/16-10/20
13	貫入抹茶茶碗	1990年代後半	陶器	9.2×12.7×12.7	1	10/22-10/27
14	黒抹茶茶碗	2000年代初頭	陶器	9.5×11.7×11.7	1	10/29-11/4
15	炭化窯変抹茶茶碗	2000年代	陶器	8.7×11×11	1	10/16-10/20
16	白萩釉抹茶茶碗	2000年代後半	陶器	8.4×11.7×11.7	1	10/22-10/27
17	白萩釉抹茶茶碗	2000年代後半	陶器	9.7×11.8×11.8	1	10/29-11/4
18	黄瀬戸灰釉抹茶茶碗	1990年代	陶器	9.5×11×11	1	10/16-10/20
19	桜灰釉抹茶茶碗	1990年代	陶器	9×11.7×11.7	1	10/22-10/27
20	建水	1980年代	陶器	9.5×13.5×13.5	1	10/29-11/4
21	建水(蓋付き)	1980年代	陶器	12×12.5×12.5	1	10/16-10/20
22	火襷抹茶茶碗	1980年代	陶器	8.7×12×12	1	10/22-10/27
23	炭化窯変抹茶茶碗	1980年代	陶器	7×12×12	1	10/29-11/4
24	二重作り一輪挿し	1980年代初頭	陶器	16×10×10	1	10/16-10/27
25	火襷一輪挿し	1980年代後半	陶器	19×11×11	1	10/29-11/4
26	取っ手付き花入れ	1980年代半ば	陶器	26×9×9	1	10/16-11/4
27	鉄釉花入れ	1980年代後半	陶器	21×10.5×10.3	1	10/16-11/4
28	陶器ランプ	1990年代後半	陶器、アクリル、ゴム	22.5×16×16	1	10/16-11/4
29	桜灰釉窯変平茶碗	1980年代	陶器	7.3×15.1×15.1	1	10/16-11/4
30	黄瀬戸窯変平茶碗	1990年代初頭	陶器	7.8×13.5×13.5	1	10/16-10/27
31	白萩釉井戸茶碗	1990年代	陶器	7.7×13.5×13.5	1	10/16-10/20
32	貫入平茶碗	1980年代	陶器	7.5×15×15	1	10/16-11/4
33	貫入平茶碗	1990年代初頭	陶器	7×14.5×14.5	1	10/16-11/4
34	白萩釉赤茶碗	1980年代末	陶器	7×13.5×14	1	10/22-11/4
35	窯変赤平茶碗	1980年代初頭	陶器	7×13.8×13.8	1	10/29-11/4
36	透かし彫り二重作り	1980年代後半	陶器	23.5×15×15	1	10/16-11/4
37	焼締め壺	1990年代半ば	陶器	23×13×13	1	10/16-11/4
38	火襷壺	1980年代後半	陶器	22.5×14.5×14.5	1	10/16-11/4
39	炭化窯変壺	1980年代半ば	陶器	28×16×16	1	10/16-11/4
40	火襷二重作り	1998(平成10)年頃	陶器	33×18×18	1	10/16-11/4
41	火襷二重作り	1980年代末	陶器	26.6×16×16	1	10/16-11/4
42	火襷鶴首	2004(平成16)年頃	陶器	28.5×14×14	1	10/16-10/20
43	焼締め二重作り	1990年代	陶器	34×21×21	1	10/16-11/4
44	火襷鶴首	2004(平成16)年頃	陶器	28×14×14	1	10/22-10/27
45	鉄釉鶴首	1990年代後半	陶器	25×14×14	1	10/29-11/4
46	縮み釉炭化窯変壺	2000年代初頭	陶器	46×35×35	1	10/16-11/4
47	暁雲	1990年代初頭	陶器	38.5×32×32	1	10/16-11/4
48	焼締め大壺	2000年代初頭	陶器	41×30×30	1	10/16-11/4
49	妙義連山	2000年代半ば	陶器	44.5×33×33	1	10/16-11/4
50	紫陽花	1985(昭和60)年頃	陶器	29×36.5×36.5	1	10/16-11/4

国立ハンセン病資料館2024年度ギャラリー展

とやま しゅうはく

富山秀伯作陶展

—隔離の壁を越える作品たち—



紫陽花 1985(昭和60)年頃

会期：2024年10月16日(水)～11月4日(月)

場所：国立ハンセン病資料館 1階ギャラリー

開館時間：午前9時30分～午後4時30分(入館は午後4時まで)

休館日：10月21日(月)、10月28日(月)

入館料：無料



開催にあたって

富山秀伯【名前：富岡克行】さんは1948（昭和23）年に群馬県に生まれ、ハンセン病を発病し、1961（昭和36）年に多磨全生園に入園しました。現在も多磨全生園で暮らしています。

療養所のなかで富山さんは様々な趣味に没頭しますが、とりわけ大きな生きがいとなったのが陶芸でした。1980（昭和55）年から多磨全生園陶芸室に籍を置き、陶芸にのめりこんでいきます。やがては陶芸を生業として社会復帰することを目指し、公募展へ出品するようになりました。しかし、実力者が集まる大きな公募展では落選し続けます。それでも富山さんは諦めず、実家の梨園の梨の木の灰を釉薬に用いた大壺「紫陽花」を作りました。作品は目標としていた権威ある公募展でみごと入選を果たします。

これに手ごたえを感じた富山さんは、本格的に陶芸家の道を目指しますが、資金面や自身の障がいの都合で社会復帰は断念しました。しかし、その後も作陶活動続け、東村山市中央公民館の陶芸講師を担当し、1991（平成3）年には教え子の勧めもあり個展を開催することができました。

趣味として始まった陶芸は、社会でも通用するプロフェッショナルの域にまで達し、ついには市民との交流を生み出しました。こうして富山さんは、作陶活動を通じて「隔離のもとでの社会復帰」を実現したと胸を張ります。

隔離の壁を越え社会との交流を生んだ富山さんの作品をぜひご覧ください。

国立ハンセン病資料館

ごあいさつ

このたびは「富山秀伯作陶展—隔離の壁を越える作品たち—」にご来場いただきありがとうございます。私は最初遊び半分で陶芸を始めましたが、非常に障がい重い老人が作品を作っているのを目の当たりにし、「若い自分が負けてられない」と作陶活動に真剣に向き合うようになりました。

多磨全生園の陶芸室に入ってまもなくして、埼玉県の公募展に出品することになりました。最初の出品では落選し、社会との実力の差を痛感しました。その後は、出品されている作品の傾向を調べ、出品に向けての計画を立て、粘土や釉薬を吟味して公募展に臨みました。すると、埼玉県の公募展では数年連続して入選することができました。

陶芸室の仲間たちの中には障がいの関係から職員の手を借りて作品作りをする人もいます。しかし、私は自分自身の力で完成させるという強い信念を持っていました。釉薬や作り方を常に工夫しました。私の得意な技法の中に「火襷」があります。藁を襷のように粘土にくるんで焼成させる作り方です。のちにプロの陶芸家になる全生園の職員からは、「これだけ寸分の狂いがなく襷模様の作品を作るのは富山さんしかいないだろう」と言われました。「完璧のなかに美を求める」が私の信条でした。

陶芸家として社会復帰をしようとしていたころ、多磨全生園の入園者である大竹章さんから「本当の社会復帰は療養所にいたってできるんだ」と言われました。それを自分なりに考えました。最初は、手に障がいがあることから、「他の陶芸家に負けたくない」という思いで作品作りをしていました。しかし、いつしか「作品作りは勝ち負けではない」「自分の理想を追い求めなければ意味がない」と思うようになりました。すると、「療養所のなかにも、『自分自身は社会にいる』と思っていれば、社会復帰と言えるのではないか」という境地に到達しました。

理想を追い求め続けた作品をぜひご覧ください。

富山秀伯

富山秀伯作陶展—隔離の壁を越える作品たち—



4 炭化窯変徳利・炭化窯変ぐい呑み 1980年代後半



5 辰砂釉皿 1980年代前半



9 白萩釉水指 1980年代前半



13 貫入抹茶茶碗 1990年代後半



29 桜灰釉窯変平茶碗 1980年代



36 透かし彫り二重作り 1980年代後半



42 火襷鶴首 2004（平成16）年頃



49 妙義連山 2000年代半ば